

附属幼稚園新任者 自己紹介文 ('15.4.)

園長 木村吉彦

今年度から附属幼稚園長を仰せつかりました木村です。現在の所属は教職大学院ですが、かつては幼児教育講座に所属し、幼児教育学が専門でした。幼児教育学を前提としながら、小学校との連携を大切にする生活科授業を担当するようになり、幼小連携を中核とした生活科教育学が現在の専門内容です。子どものもつ主体的な取り組みである遊びを重視し、遊びを通してこの子たちはどのような資質・能力を身に付けているのかをしっかりと見とれることが幼児教育教師の指命だと考えています。そして、最終的には子どもたちの「生きる力の基礎」を育まなければなりません。木村が考える教師の役割としての目標は「すべては、子どもたちのために」です。附属幼稚園の先生方との協力のもとに、「子どもたちのために」園長としての活動に励みたいと思います。

『いちい 47号』寄稿

すべては、子どもたちのために

園長 木村吉彦

附属幼稚園児たちや保護者の皆様の前で「よっちゃんデビュー」をしてから数ヶ月が経ちました。先生方も保護者の皆様も、子どもたちの自主性のある「遊び」を大切にしてくださいし、友達とのかかわりもとても大切にしてください。木村は日々感激しております。「遊び」や「給食」などを通して、園児たちの「主体性」と「社会性」を育むことで、子どもたちの「生きる力の基礎」を養いましょう。「すべては、子どもたちのために」幼児教育に邁進しましょう。

『いちい 48号』寄稿

修了・進級おめでとう！

園長 木村 吉彦

まもなく、うみ組さんは修了、やま組さん・そら組さんは進級ですね。皆さん、おめでとう！アメリカの作家フルガムは、『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』という著書を書いています。「人生に必要な知恵の『すべて』を幼稚園で学ぶ」という内容ですが、幼稚園が人間関係の基礎を学ぶための重要な場であることはまちがいありません。先日のうみ組さん主催の「クリスマスパーティー」に象徴されますが、幼児たちの「主体性」と「社会性」に基づく「心の育ち」を強く感じました。うみ組の皆さん、小学校でも、自主性と相手意識をしっかりと自覚して学校生活に臨んで下さいね。

平成 27 年度附属幼稚園研究紀要「はじめに」原稿 (2016.1.25 作成)

は じ め に

本紀要は平成 27 年度の本園の研究活動をまとめたものです。研究テーマは「遊び込む子どもー学びの基盤に着目してー」です。一昨年度から研究を開始し、今年度が最終年度に当たる 3 年目でした。平成 27 年 10 月 7 日に第 23 回幼児教育研究会を開催しました。その際に、前年度に引き続き今年度の研究会においても、東京大学大学院教育学研究科教授の秋田喜代美先生から「遊び込む子どもを育てる保育」についてご講演をいただきました。秋田先生からは、当日の本園の幼児たちの姿もたくさんご紹介いただき、「遊び込む子ども像」を実証していただきました。

本園における「遊び」のもつ意義について確認させていただきます。かつての本園における研究テーマ「幼小接続を考える」(文科省からの研究指定)の最終研究紀要(平成 24 年度版)において、本園は「幼児教育の本質は、自由遊びを中心とした自由保育である。そこで幼児たちが獲得した資質・能力は、小学校以降の教科学習にも接続する。」と報告しました。そもそも、「遊び」とは、子どもたちが自分で見つけた課題(内なる課題)を、自分の力で解決・実現しようとする「自己実現体験」であると、木村は捉えております。自己実現できたことで「達成感」が生まれ、「ぼくだってやればできる」「わたしだってがんばればできる」という「自己肯定感」が生まれます。それは、「主体性」の源である「生きる自信」につながり、幼児教育がめざす「生きる力の基礎」を獲得しているのです。一方、1 人だけの遊びに止まらず、友達(仲間)との遊びを通して、幼児たちには「相手意識」も育ちます。これは、「社会性の芽生え」を意味します。以上のように、幼児たちは、「遊び」を通して、主体性と社会性が生まれ、人生を生き抜く力の基礎を得ているのです。

以上の「遊びの意義」を意識して、本紀要のご一読をお願いいたします。

上越教育大学附属幼稚園
園長 木村 吉彦

園長あいさつ

遊びのもつ意義と幼児の姿

園長 木村 吉彦

本園の研究テーマは「遊び込む子どもー学びの基盤に着目してー」です。これまで3年間に渡って研究活動を発展させてきました。これからも「遊び込む子ども」の姿を大切にしながら、本園の教育活動をさらに発展させていこうと思います。

幼児教育における「遊び」のもつ意義について確認させていただきます。かつての本園における研究テーマ「幼小接続を考える」（文科省からの研究指定）の最終研究紀要（平成24年度版）において、本園は、「幼児教育の本質は、自由遊びを中心とした自由保育である。そこで幼児たちが獲得した資質・能力は、小学校以降の教科学習にも接続する」と報告しました。そもそも、「遊び」とは、子どもたちが自分で見つけた課題（内なる課題）を、自分の力で解決・実現しようとする「自己実現体験」であると、木村は捉えております。自己実現できたことで「達成感」や「成就感」が生まれ、「ぼくだってやればできる」「わたしだってがんばればできる」という「自己肯定感」が生まれます。それは、主体性の源である「生きる自信」につながり、幼児教育がめざしている「生きる力の基礎」を「遊び」を通して獲得しているのです。幼児たちが「遊び込む」ことで、自分たちの人生を生き抜く「主体性」の根源を身に付けています。一方、たった1人だけの遊びに止まらず、友達（仲間）との遊びを通して、幼児たちには「相手意識」も育ちます。これは、「社会性の芽生え」を意味します。

例えば、「砂場遊び」の幼児たちの具体的な姿を考えてみましょう。まず、「砂ってこうなんだ」と触れてみてから、「川を創りたいので水を当てたら違ってきた」というように「感性（感覚）」の育ちから始まります。また、3歳児（年少児）さんが5歳児（年長児）先輩と会話をする中で、年少児は様々な日本語を覚えます。これは知識の獲得です。そして、「川を創ろう」で子どもたちなりにスコップを使って活動に臨みます。これは、技能の獲得です。さらに、同期生・先輩・後輩との話し合いや関わりによって、幼児たちは主体性のみならず、相手意識に基づく人間関係力（社会性）やコミュニケーション能力も身に付けています。

以上のように、幼児たちは、「遊び」を通して、主体性と社会性が生まれ、人生を生き抜く力の基礎を得ています。まさしく、「三つ子の魂、百まで」です。3歳児教育から始まる「幼稚園教育」によって、幼児たちは人生を主体的に生き抜こうとする力が育っているのです。

以上の「遊びの意義」を意識して、本HPを積極的にご覧下さい。

第 22 回附属幼稚園修了証書授与式式辞

本日は、ご多用の中、西村俊夫副学長先生はじめご来賓の皆様には、本附属幼稚園修了式にご参加いただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

そして、うみ組幼児の保護者の皆様、本日はおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、うみ組のお兄さん・お姉さん、今日は附属幼稚園修了、おめでとう。修了証書のお渡しには、園長先生もとてもうれしかったです。そして、皆さんの落ち着いて立派な様子に感動いたしました。皆さんと、この1年間ご一緒したわけですが、普段の遊びからは、同じクラスのうみ組さんとお友達になり、やま組さんやそら組さんともお友達になって、様々な遊びを教えてくださいました。文字通り、お兄さん・お姉さんになりました。さらに、運動会や妙高青少年自然の家でのお泊まり保育、クリスマスの会やお楽しみ発表会では、うみ組さんが中心になってこの附属幼稚園のためにしっかり頑張ってくれて、とても立派なお兄さん・お姉さんになってくれたなあ、と感じました。これから、皆さんは小学校の1年生になります。これまでの遊びでは、「自分で選んだ遊び」「自分が本当にやりたいこと」を大事にしてきましたよね。これからも、「僕は・わたしは、こういうことを頑張ろう」と自分で決めること、そして、「お友達とこういうことを一緒にやろう」という思いも自分で決めて、毎日の学校での生活を大切にしてください。

それでは、これからのうみ組さんの自分の頑張りを大切にしてもらうことをお願いして、修了をお祝いするお話といたします。

今日は、本当におめでとうございました。

平成28年3月16日 附属幼稚園長 木村吉彦

『いちい 49号』寄稿文

幼小連携の大切さー生活科理解に基づきー

園長 木村 吉彦

今年度「第1回フォーラム」でもPTAの皆様にお伝えしましたが、幼児教育と小学校教育をつなぐのが生活科です。幼児にとって小学校への入学とは、遊び中心の生活から（教科）学習中心の生活へと生活スタイルが大きく変わることです。幼児期の子どもたちは遊びながら様々な資質・能力を身に付け、小学校以降には教科学習を中心として学び、やはり様々な資質・能力を身に付けます。幼児教育と小学校教育の違いに基づき、両方の性格を併せ持っているのが生活科です。生活科理解を通してこれからの幼小連携を大切にしましょう。木村の拙著を参考にしてください。

『いちい 49号』寄稿文（改訂版）

幼小連携の大切さ

園長 木村 吉彦

今年度「第1回フォーラム」でもPTAの皆様にお伝えしましたが、幼児にとって小学校への入学とは、遊び中心の生活から教科学習中心の生活へと生活スタイルが大きく変わることです。幼児期の子どもたちは遊びながら様々な資質・能力を身に付け、小学校以降には教科学習を中心として学び、やはり様々な資質・能力を身に付けます。幼児は、遊びを通して主体性と社会性を同時並行的に身に付けます。この2つの資質・能力が小学校生活につながるのです。幼小連携の大切さについてご理解ください。

『いちい 50号』寄稿文

修了・進級おめでとう！

園長 木村 吉彦

まもなく、うみ組さんは修了、やま組さん・そら組さんは進級ですね。皆さん、おめでとうございます。前回の『いちい』でもお伝えしましたが、幼小連携の大切さが今回の指導要領改訂においても強調されています。幼児期において育てほしい学びの内容は、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」の10項目です。本園の皆さんも、これらが育っています。うみ組の皆さん、小学校でも「心の育ち」をしっかりと自覚して学校生活に臨んで下さいね。

は じ め に

本園では、前年度までの3年間、「遊び込む姿—学びの基盤に着目して—」をテーマとして研究に取り組んでまいりました。そこで、幼児が遊び込む経験から「がんばる力」「かんがえる力」「よりよいかかわる力」「ことばの力」の4つの力が総合的に育まれるのではないかということが見えてきました。これまでの研究成果に基づき、今年度からは「遊び込む子ども—教育課程の創造—」というテーマのもと、研究を進めてまいりました。平成28年10月5日には第24回幼児教育研究会を開催し、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所教授・文京区立お茶の水女子大学こども園園長の宮里暁美先生から「今、幼児期の教育に求めるもの～自ら育つものを育てようとする心～」をテーマにご講演をいただきました。私たちが遊び込む子どもの姿に基づいて教育課程を考える上で、大切なことを学ばせていただきました。

現在は、幼稚園教育要領改訂の時期です。平成28年12月に出された中教審「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」において、幼児教育では、これまでと同様「人格形成の基礎を培うこと」と「環境を通して行う教育であること」が重要であることが示されました。また、教育課程を編成する上では「各領域のねらいを相互に関連させ、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』や小学校での学びを念頭に置きながら、幼稚園等の教育目標等を踏まえた総合的な視点でねらいや内容を組織すること」と「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせて実施することの必要性」がこれまで以上に打ち出されています。新教育課程とのかかわりも意識して、本紀要のご一読をお願いいたします。

上越教育大学附属幼稚園
園長 木村 吉彦

第 23 回附属幼稚園修了証書授与式式辞

本日は、ご多用の中、昨年度に引き続き西村俊夫副学長先生はじめご来賓の皆様には、本附属幼稚園修了式にご参加いただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

そして、うみ組幼児の保護者の皆様、本日はおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、うみ組のお兄さん・お姉さん、今日は附属幼稚園修了、おめでとうございます。修了証書のお渡しには、園長先生もとてもうれしかったです。そして、皆さんの落ち着いて立派な様子に感動いたしました。皆さんと、この2年間ご一緒したわけですが、普段の遊びからは、同じクラスの去年のやま組・うみ組さんとお友達になり、今年度のやま組さんやそら組さんともお友達になって、様々な遊びを教えてくださいました。文字通り、お兄さん・お姉さんになりました。さらに、運動会、クリスマスの会やお楽しみ発表会では、うみ組さんが中心になってこの附属幼稚園のためにしっかり頑張ってくれて、とても立派なお兄さん・お姉さんになってくれたなあ、と感じました。これから、皆さんは小学校の1年生になりますが、これまでの遊びでは、「自分で選んだ遊び」「自分が本当にやりたいこと」を大事にしてきましたよね。これからも、「僕は・わたしは、こういうことを頑張ろう」と自分で決め、そして、「お友達とこういうことを一緒にやろう」という思いも自分で決めて、毎日の学校での生活を大切にしてください。

保護者の皆様、小学校生活は「0（ゼロ）からのスタート」ではなく、これまで育ててきたお子様達の資質・能力を更に深め、広げていく時代に入る、ということ意識してください。これからも、お子様の自己肯定感を高めてあげてください。

それでは、これからのうみ組さんの自分の頑張りを大切にしてもらおうことをお願いして、修了をお祝いするお話といたします。

今日は、本当におめでとうございました。

平成29年3月15日 附属幼稚園長 木村吉彦

附属幼稚園の皆様へ

平成28年度離任者 園長 木村吉彦

この2年間、皆様からは大変お世話になりました。私が昨年度から実現に向けて努力させていただきまされたのが、「預かり保育」です。今年度から実現でき、その結果、年少児さんが次年度も含め「定員充足」を発揮できましたことに喜びを感じています。担任先生を初め、すべての皆様にご努力をしていただき、本当にありがとうございました。これからも、定員充足のみならず、本園が重要視している「遊び込み」を大事にして、子どもたちの「育ち」を大切にしてください。

認定NPO法人 マミーズネット「上越子育て応援誌 2015年秋号」原稿（2015.9 作成）

私たち、マミーズネットを応援しています！！「すべては、子どもたちのために」

○回目は、**上越教育大学附属幼稚園長 木村吉彦** です。

マミーズ・ネットの皆さん、いつもお世話になっております(^_^)v。昨年度において「認定NPO法人」となり、公益性の高い団体として認められる存在にまで発展しましたことを心よりお祝い申し上げます。

かつて木村が幼児教育講座に所属し、子育て支援に関する男女共同参画社会実現に向けての研究をしていた頃に顧問を依頼されました。皆様の前で木村の子育ての話をしたとき、妻だけでなく木村も息子の食事・歯磨き・洗濯など多くの子育て支援を実現していたことを聴いていただいたことを今でも覚えています。

そして、現場を大事にする教育学者として上越教育大学で長年過ごしておりますが、今年度から附属幼稚園長を仰せつかりました。「現場を大事にする」とは「すべては、子どもたちのために」を意味しています。子どものもつ主体的な取り組みである遊びを大事にし、遊びを通してこの子たちはどのような資質・能力を身に付けているのかをしっかりと見てあげることが子育て支援の指命だと考えています。機会があれば、「子育て支援の課題」についてのお話しもさせていただきます。

次年度本格実施を目指す附属幼稚園の「預かり保育」への御協力もお願いいたします。

